

令和元年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第3年次）（概要）

1 研究開発課題名	
マネジメント能力を身に付けた職業人の育成 ～ 札幌の未来を担う人材の育成	
2 研究の概要	
<p>本研究は、札幌市立で唯一の商業高校である本校を核として、地元札幌を中心とした企業、外部教育機関、行政、地域社会が有機的に結び付くことで、人的資源、物的資源、財務的資源及び情報の資源を適切に活用する『マネジメント能力を身に付けた職業人の育成』を目標とする教育プログラムの開発を目的としている。</p> <p>● 育成する資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナー・コミュニケーション能力 ・協調性・協働性 ・リーダーシップ ・企画力・創造力 ・顧客満足実現能力 ・ビジネス探究能力 ・会計情報提供・活用能力 ・情報処理・活用能力 <p>● 研究開発するプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「観光」分野に関する取組 ・「MICE」分野に関する取組 ・「国際交流」分野に関する取組 ・「地域ビジネス」分野に関する取組 ・「起業家教育」分野に関する取組 	
3 令和元年度実施規模	
全校生徒（第1学年・第2学年・第3学年）を対象に実施した。	
4 研究内容	
○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）	
第1年次	<p>触れて調べて学ぶこと『知って身に付ける』</p> <p>1年次は、『知る』を重点項目とし、1年生を対象に、地域のビジネスに直接触れることで、地元“札幌”を知るとともに、人材としての“自分”を知るための学習プログラムを、科目『ビジネス基礎』を中心に実施し、その成果を分析・検証する。</p>
第2年次	<p>体験を通し『考えて行動する』</p> <p>2年次は、『考える』を重点項目とし、新たに2年生を対象に加え、1年生で体験した本事業における学びを基に、地元“札幌”に根付く活動を考える学習プログラムを科目『マーケティング』を中心に実施し、その成果を分析・検証する。</p>
第3年次	<p>新たな価値を創り出し『使って生かす』</p> <p>3年次は、『使う』を重点項目とし、さらに3年生を対象に加え、これまでの学習や体験により身に付けた能力やつながりを活用し、地元“札幌”に貢献する人材へと成長するためのプログラムを、科目『課題研究』・『総合実践』を中心に実施し、学習のまとめとして、生徒自身が本事業における活動による成果について発表や提案を行い、全体としての成果を分析・検証するとともに、本事業を総括的に評価する。</p>
○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）	
特記事項無し	

○令和元年度の教育課程の内容（令和元年度教育課程表を含めること）

- (1) 商業科：「ビジネス基礎」（第1学年・必修・3単位）
 - ・互いに知識と意識を共有する「協調性・協働性」の育成
 - ・新たな起業に向けて、互いのアイデアを尊重する「企画力・創造力」の育成
 - ・ビジネスに必要な「会計情報提供・活用能力」の育成
 - ・地域の産業を新たなビジネスとして捉える「ビジネス探究能力」の育成
 - ・正確な情報を入手し、正しい活用をする「情報処理・活用能力」の育成
 - ・実際に即した「ビジネスマナー」を使える能力の育成
- (2) 商業科：「情報処理」（第1学年・必修・3単位）
 - ・正確な情報を入手し、正しい活用をする「情報処理・活用能力」の育成
- (3) 商業科：「マーケティング」（第2学年・必修・3単位）
 - ・「顧客満足実現能力」・「情報処理・活用能力」の育成
 - ・「企画力・創造力」・「ビジネス探究能力」の育成
 - ・「協調性・協働性」・「ビジネス探究能力」・「会計情報提供・活用能力」の育成
- (4) 外国語科：「コミュニケーション英語Ⅰ」（第1学年・必修・3単位）及び「英語会話」（第1学年・必修・2単位）
 - ・地域の良さや課題を深く知る「顧客満足実現能力」の育成
 - ・外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成
- (5) 外国語科：「コミュニケーション英語Ⅱ」（第2学年・必修・3単位）及び「異文化理解」（第2学年・選択・4単位）
 - ・外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成
- (6) 地理・歴史科「地理A」（第1学年・必修・2単位）
 - ・地域の良さや課題を深く知る「顧客満足実現能力」の育成
- (7) 商業科：「課題研究」（第3学年・必修・4単位）
 - ・「マネジメント能力」を活用してビジネスを探究する能力の育成（「ビジネス探究能力」・「プロジェクトを管理する能力」・「企画力・創造力」及び「リーダーシップ」の育成）
- (8) 商業科：「総合実践」（第3学年・必修・3単位）
 - ・「マネジメント能力」の育成
 - ・「マネジメント能力」を発揮してビジネスを担う能力の育成（「プロジェクトを管理する能力」・「企画力・創造力」・「リーダーシップ」・「会計情報提供・活用能力」及び「情報処理・活用能力」の育成）
- (9) 商業科：学校設定科目「観光・MICE入門」（第3学年・選択・3単位）
 - ・「顧客満足実現能力」を活用して観光ビジネスを展開するために必要な能力の育成（「顧客満足実現能力」・「ビジネスマナー・コミュニケーション能力」・「協調性・協働性」の育成）
- (10) 外国語科：「英語探究」（第3学年・選択・3単位）
 - ・外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成
- (11) 学校行事
 - ・活動の輪と視野を広げるための「コミュニケーション能力」の育成
 - ・「リーダーとなる力（リーダーシップ）」の育成
 - ・これまでの学習プログラムの成果を分析・検証し、普及させる取組

○具体的な研究事項・活動内容

- (1) 課題を見出し、未来を創造するために、現状を知りマネジメント能力の基盤を身に付ける力の育成（1年生を対象した取組）
 - (ア) 「協調性・協働性」・「企画力・創造力」・「顧客満足実現能力」・「ビジネス探究能力」の育成 【観光分野の取組・MICE 分野の取組・起業家分野・地域ビジネス分野の取組】
【観光分野の取組】
 - ① 実施内容： 観光について大学で先進的な研究をされている講師から観光に関する講話を受け、地域インバウンドの現状や訪日外国人の観光に対する動向、本校の所在地である札幌市南区における観光に対する取組事例について学んだ。
 - ② 実施状況 6月中旬から7月上旬の合計10時間 科目「ビジネス基礎」で実施

【MICE分野の取組】

- ① 実施内容： 観光について先進的な取組地域の見学と講話、MICEについての講話からこれからの観光・MICEの取組の動機づけとなった。
- ② 実施状況 6月の11時間（バス研修1日・事前事後学習5時間）科目『ビジネス基礎』及び『英語会話』、『地理A』で実施

【地域ビジネス分野の取組】

- ① 実施内容： 一昨年度のSPH国内研修で得た地域ビジネスに関する知識を生徒に習得させるために研修に参加した本校教員が講話を実施した。講話で紹介された地域振興事例などを参考に、アイデア創出技法（KJ法）によりグループワークを行い、グループごとに地域ビジネス案を作成した。
- ② 実施状況 9月上旬から10月上旬の合計8時間 科目「ビジネス基礎」で実施

【起業家分野の取組】

- ① 実施内容 起業に関する専門家から講話を受け、起業意識の向上を図った。生徒各自が起業アイデアを創出し、グループワークにより一人ひとりの起業アイデアをグループの中で共有し、各グループとしての起業アイデアにまとめた。
- ② 実施状況 12月上旬から12月下旬の合計10時間 科目「ビジネス基礎」で実施

評価	A	実施による効果	事後学習（感想文）の記載内容から多くの生徒が「協調性・協働性」「企画力・創造力」を高めたと判断した。
----	---	---------	--

（※ 各取組の生徒感想文評価より）

(イ) 外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成 【国際交流分野の取組】

- ① 実施内容 大学教授を講師に招き、「国際観光都市札幌のおもてなしについて」の講演を実施した。授業においては、外国人観光客にも楽しんでもらえる北海道各地の観光資源を紹介するプレゼンテーションを英語により行った。
- ② 実施状況 9月中旬から2月下旬の28時間 科目「英語会話」で実施。

評価	A	実施による効果	インバウンド旅行者についての理解を深め、平易な英語でも旅行者とコミュニケーションを図れることを確認できた。
----	---	---------	---

（※ 授業評価より）

(ウ) 取組の輪と視野を広げるための「コミュニケーション能力」の育成

【観光分野の取組・MICE分野の取組・地域ビジネス分野の取組・国際交流分野の取組】

- ① 実施内容 生徒国内研修については、今後の活動の参考とするために、代表生徒が観光・MICE分野についての研修（日本大学国際関係学部や三島市でのフィールドワーク等）を実施した。また、生徒海外（台湾）研修については、ITF2019台湾国際旅行博で札幌の魅力を伝えるPR活動や商業（観光等）事情を調査するために、研修を実施した。
- ② 実施状況 国内7月31日～8月2日の2泊3日 海外11月8日から11日の3泊4日

評価	A	実施による効果	成果を全校生徒に共有する方法を改善し、他の取組に効果を波及させることができた。
----	---	---------	---

（※ 取組後の教員による評価・反省より）

(エ) 「会計情報・活用能力」・「情報処理・活用能力」・「ビジネスマナー」の育成

- ① 実施内容 「ビジネスに関する計算の基礎」については、実践的なビジネス計算の基礎力を身に付けるため、有価証券報告書を用いた財務比率の計算を行った。「情報の取捨選択をする」については、「ビジネス基礎」及び「情報処理」の授業を通して、情報の信頼性を見極め、正しく選択し、活用できる力を身に付けた。
- ② 実施状況 9月上旬に6時間 科目「ビジネス基礎」・「情報処理」で実施

評価	B	実施による効果	有価証券報告書により実際の金額をもとにビジネス計算を行うことにより、70%の生徒が「興味・関心」を高めた。
----	---	---------	---

（※ 実施後アンケートより）

- (2) 未来を創造するために、前年度身に付けた知識や技術を基に、次年度実施する取組を考え、マネジメント能力に必要な様々な能力を相互に結びつける力の育成（2年生及び一部の1年生を対象として行う取組）

(ア) 「顧客満足実現能力」・「情報処理・活用能力」の育成 【観光分野の取組】

① 実施内容 事前学習では札幌市が発行する「札幌の観光」を活用し市内における観光の現状を学んだ。講話では、顧客満足に対する知識や理解を深めるために、顧客満足の実現を目指す効果的なマーケティングを行っている企業の具体的な事例と観光プランの作成に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得した。

② 実施状況 6月上旬から7月上旬の合計16時間 科目「マーケティング」で実施

評価	A	実施による効果	「顧客満足を実現できる能力が高まったか」というアンケートに対して96.3%の生徒が肯定的な回答をした。
----	---	---------	---

(※ 実施後授業アンケートより)

(イ) 「企画力・創造力」・「ビジネス探究能力」の育成 【地域ビジネス分野の取組】

① 実施内容 札幌に密着して先進的な取組を進めている企業の事例を本校教諭から説明し、地域ビジネスの基礎的・基本的な知識を習得するとともに、地域連携を図ることを目的としたビジネスの提案を行い、これからの可能性を見出す。

② 実施状況 2月中旬から3月中旬の12時間程度 科目「マーケティング」で実施予定

評価	-	実施による効果	当研究実施報告作成時において、未実施のため評価不能である。学習プログラムは予定通り計画されている。
----	---	---------	---

(ウ) 「協調性・協働性」・「ビジネス探究能力」・「会計情報提供・活用能力」の育成

【起業家分野の取組】

① 実施内容 起業家を支えている講師による講話を行い、資金調達のためのクラウドファンディングの仕組みや実施方法、各資源のマネジメントについての基礎的・基本的な知識・技術を習得した。

② 実施状況 10月下旬から11月下旬の合計14時間 科目「マーケティング」で実施

評価	A	実施による効果	「自分の力で課題を解決していく意識が高まりましたか」という問いに対して88.0%の生徒が肯定的な回答をした。
----	---	---------	--

(※ 実施後授業アンケートより)

(エ) 外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成 【国際交流分野の取組】

① 実施内容 外国人観光客に対応するコミュニケーション能力を育成するために、授業においてコミュニケーションに必要な会話表現を学び、実際に見学旅行で外国人に札幌に関する質問を行った。

② 実施状況 9月中旬から10月下旬の合計8時間

科目「コミュニケーション英語Ⅱ」「異文化理解」で実施

評価	B	実施による効果	インバウンド旅行者の札幌に対する意識を理解することができた。
----	---	---------	--------------------------------

(※ 実施後授業アンケートより)

(オ) 「コミュニケーション能力」・「企画力・創造力」・「顧客満足実現能力」の育成

【MICE分野の取組・地域ビジネス分野の取組・国際交流分野の取組】

① 実施内容 生徒海外(台湾)研修ではITF2019台湾国際旅行博で札幌の魅力を伝えるPR活動や商業(観光等)事情を調査するために、研修を実施した。

② 実施状況 11月8日から11日の3泊4日 ※ 学習プログラム(1)(ウ)と同様。

(カ) 「リーダーシップ」・「プロジェクトを管理する能力」の育成

【MICE分野・国際交流分野の取組】

① 実施内容 代表生徒が札幌市で開催されたオータムフェストに参加し、企画、運営、販売の実際を体験した。取組の前後でどのくらい意識の変容があったか、アンケート調査を実施した。

② 実施状況 9月28・29日に1・2学年の代表生徒各12名で実施

評価	A	実施による効果	「課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まった」「マネジメントの重要性を理解することができたか」について、参加生徒全員が肯定的な評価をした。
----	---	---------	---

(※ 実施後参加生徒アンケートより)

(3) これまでの学習や体験により身に付けた能力や人とのつながりを利用し、マネジメント能力を活用して、新たな価値を創り出す力の育成（3年生を対象とした取組）

(ア) 「マネジメント能力」の育成 【各分野を総合する取組】

① 実施内容 令和元年6月11日には本校SPH運営指導委員からマネジメントに関する講話を3年生全員（234名）が受け、その後の課題研究の活動に役立てた。

② 実施状況 6月中旬の合計4時間 科目「課題研究」で実施

評価	A	実施による効果	「経営資源を結び付けて、価値を創造する力は高まったか（マネジメント能力）」について、80.0%が肯定的な評価をした。
----	---	---------	--

（※ 実施後授業アンケートより）

(イ) 「マネジメント能力」を発揮してビジネスを担う能力の育成（「プロジェクトを管理する能力」・「企画力・創造力」・「リーダーシップ」・「会計情報提供・活用能力」及び「情報処理・活用能力」の育成） 【各分野を総合する取組】

① 実施内容 総合実践において3年生全員が資金の調達及び運用、商品の開発・販売、決算など株式会社の経営などを体験できるビジネスゲームに取り組み、ビジネスマネジメントを模擬的に実施した。

② 実施状況 6月下旬～10月上旬の合計24時間 科目「総合実践」で実施

評価	A	実施による効果	「課題を解決するために新しい価値を創造するため、経営資源を結び付けることが重要であることを理解できたか」について89.3%の生徒が肯定的な評価をした。
----	---	---------	---

（※ 実施後授業アンケートより）

(ウ) 「マネジメント能力」を活用してビジネスを探究する能力の育成（「ビジネス探究能力」・「プロジェクトを管理する能力」・「企画力・創造力」及び「リーダーシップ」の育成） 【各分野を総合する取組】

① 実施内容 教育プログラムのまとめとして、これまでに身に付けた資質・能力や商業の各分野で学んだ知識・技術、様々な人とのつながりをもとに、ビジネスに関する課題を発見し、その方策をマネジメントしながら、解決策を探究した。

② 実施状況 1年間通して実施 科目「課題研究」で実施

評価	A	実施による効果	「世の中の課題や問題点を改善していこうとする力が高まったか（課題解決力）」について、80.7%が肯定的な評価をした。
----	---	---------	--

（※ 実施後授業アンケートより）

(エ) 「顧客満足実現能力」を活用して観光ビジネスを展開するために必要な能力の育成（「顧客満足実現能力」・「ビジネスマナー・コミュニケーション能力」・「協調性・協働性」の育成） 【観光分野の取組・MICE分野の取組】

① 実施内容 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するため、講義を中心に基礎的・基本的な知識と技能を習得させるとともに、観光ビジネスを主体的かつ協働的に取り組むための実習等の実践的な活動を行った。

② 実施状況 1年間通して実施 科目「観光・MICE入門」で実施

評価	B	実施による効果	評価基準による5段階評価において、全生徒の平均値が4.0を超えてはいるが、さらに授業内容の改善が必要である。
----	---	---------	--

（※授業評価より）

(オ) 外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成 【国際交流分野の取組】

① 実施内容 語学能力や国際的なサービス能力、コミュニケーション能力の育成のため、出前授業やアメリカの高校生とのオンライン交流を実施した。さらに外国人観光客に札幌観光の魅力を伝える取組として、観光プランの作成と旅行会社への提案と改善（観光ワークショップ）を実施した。

② 実施状況 9月～12月の合計18時間実施 科目「英語探究」・「課題研究」で実施

評価	B	実施による効果	旅行会社への企画提案では、自由な発想を現実的な企画へ深化させるために必要な視点を学ぶ機会となった。
----	---	---------	---

（※ 実施後授業アンケート・担当講師の評価により）

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法

「SPH成果発表会」を令和元年12月19日に実施した。開催について広く呼びかけ、当日は生徒693名（1学年235名、2学年224名、3学年234名）、運営指導委員7名、一般参加者50名が参加した。また、3年間の教育プログラムについて研究成果をまとめた「研究実施報告書」を令和2年3月に発行し、多くの関係機関に配布する。

今後も各種研究協議会において3年間の教育プログラムの研究成果を報告し、各種研究紀要への寄稿を行い研究成果の普及に努め、他校における新たな取組の研究材料となることを期待する。また、今年度も各取組の実施状況について、実施内容や反省・改善点なども含めたショートレターをその都度本校HPに公開してきた。さらに、報道機関への情報提供も積極的に行い、取組当日取材を受け、各メディアに掲載していただいた。（北海道通信11件・北海道新聞3件・その他TVメディア等3件）

○実施による効果とその評価（数値や客観的なデータ等も用いながら記載すること）

各学習プログラムの評価は、上記「具体的な研究事項・活動内容」に記載した。SPHの教育プログラム全般の効果を測定するために毎年生徒に対してアンケートを実施してきた。今年度も12月に全生徒を対象にSPHの教育プログラムにより「学習意欲が向上したか」「課題を解決する力が高まったか」「新たな知識・技術を習得できたか」「将来の職業に対する意識が高まったか」という4つの項目についてアンケートを実施した。表1は各アンケート項目に対して「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合である。研究指定3年目である今年度は生徒の評価が大幅に向上した（表1のR01を参照）。過去2年間生徒に対するアンケートの数値が思いの外伸びていなかったが（表1のH29・H30を参照）、3年間の教育プログラムを経験し、生徒自身が自らの成長を自覚し、その成長を外部の方に認められることにより、SPHの取組や自己の成長に自信が持てるようになったのではないかと推察する。

表1	1学年				2学年				3学年			
	意欲	課題	知識	職業	意欲	課題	知識	職業	意欲	課題	知識	職業
H29	70.6%	69.7%	71.1%	57.8%	-	-	-	-	-	-	-	-
H30	84.1%	81.4%	82.7%	78.2%	64.7%	71.9%	74.1%	57.1%	-	-	-	-
R01	96.8%	96.0%	96.4%	84.3%	95.2%	93.4%	94.4%	83.9%	91.7%	90.4%	95.7%	82.6%

昨年度までSPHの教育プログラムの効果に対して、生徒のアンケート結果と日頃授業を担当している教員の評価に少し差があることを感じていた。教員の評価としては、SPHの取り組みに対する生徒のモチベーションは高く、日々の授業で学んだ知識や技術をSPHの取組で活用し、グループワークや言語活動をする中で学びを深化させ、知識や技術を主体的に活用することが学びの楽しさや充実感に繋がっていると認識していた。今年度は生徒のアンケート結果と教員の評価が結びつく結果となり、改めてSPHの教育プログラムの効果を実感することができた。

○実施上の問題点と今後の課題

SPHの研究指定3年目を終えようとしている本校の今後の課題として2点挙げる。1点目は「研究成果の普及をいかに進めるか」、2点目は「研究成果を今後の教育活動にどのように生かしていくか」である。前者については、上記、研究成果の普及方法でも記述した通り計画されていることを進めていきたい。後者については、SPH事業を通して多くの人との出会いや繋がりででき、また、啓北スタイルに象徴されるように教育手法を確立することができた。これらの財産を教育活動の中に取り入れながら、特色ある教育活動を実践し、研究成果を引き継ぎたい。